



DAIHATSU



2016年11月30日
(1/2)

歩行者へのブレーキ対応を追加した衝突回避支援システム 「スマートアシストⅢ」を開発

～世界最小ステレオカメラ^{※1}を採用、軽乗用車「タント」に搭載し本日発売～



スマートアシストⅢ 搭載車「タント」



小型ステレオカメラ

ダイハツ工業（株）（以下、ダイハツ）は、ダイハツ独自の衝突回避支援システム「スマートアシスト」を改良し、「スマートアシストⅢ」を開発した。一部改良した軽乗用車「タント」、軽福祉車両「タント スローパー」「タント ウェルカムシート」に搭載し、11月30日（水）から全国一斉に発売する。（タント一部改良の内容については同日発行の別リリースをご参照）

スマートアシストは、交通事故低減に向け、日常の生活においてクルマを使う中で求められる安全・安心を提供するため、2012年に軽自動車ですべて初めて^{※2}ダイハツが搭載した衝突回避支援システムである。現在は軽を中心としたスモールカー9車種に搭載しており^{※3}、2016年7月には搭載車種の累計販売台数が100万台を突破するなど、スモールカーに最適な機能と、6万円^{※4}というお求めやすい価格設定で多くのお客様からご支持をいただいている。

今回新たに開発したスマートアシストⅢは、世界最小^{※1}の「小型ステレオカメラ」を採用し、衝突回避支援ブレーキ機能が歩行者にも対応、作動速度域の拡大を実現したことで、従来よりもさらに安全性を向上した。ステレオカメラを小型化したことで、将来的にはタントのようなモアスペース系のみならず、より小型な軽自動車での搭載が可能となる。また、ダイハツ初のオートハイビームも搭載し、夜間の安心・安全性能を向上した。さらに、機能は充実化しながら、価格は据え置きとし、従来どおりスモールカーを必要とされているお客様に身近な機能とした。

※1：左右カメラ間隔80mmでステレオカメラとしては世界最小（2016年11月30日現在。ダイハツ調べ）

※2：2012年12月時点。ダイハツ調べ

※3：「ムーヴ」「タント」「キャスト」「ウェイク」「ムーヴ キャンパス」「ハイゼット キャディー」「ブーン」「トール」はスマートアシストⅡ、「ミラ イース」はスマートアシストを搭載

※4：スマートアシストⅡの場合、税抜

＜スマートアシストⅢ機能概要＞

☆スマートアシストⅢ機能一覧

機能	作動対象	作動車速域	備考※5
	衝突回避支援ブレーキ機能 (対車両・対歩行者)	対車両	約4～80km/h 衝突回避：速度差約4～30km/h 被害軽減：速度差約30～80km/h
対歩行者		約4～50km/h 衝突回避：速度差約4～30km/h 被害軽減：速度差約30～50km/h	☆
被害軽減 ブレーキアシスト	対車両	約30～80km/h (速度差約30～80km/h)	☆
	対歩行者	約30～50km/h (速度差約30～50km/h)	☆
衝突警報機能 (対車両・対歩行者)	対車両	約4～100km/h (速度差約4～100km/h)	○
	対歩行者	約4～50km/h (速度差約4～50km/h)	
誤発進抑制制御機能	前方	約0～10km/h	
	後方	約0～10km/h	
先行車発進お知らせ機能		-	
車線逸脱警報機能		約60km/h以上	
オートハイビーム		約25km/h以上	☆

※5：☆=スマートアシストⅢで新設定、○=性能向上（スマートアシストⅡ⇒スマートアシストⅢ）、
無印=従来同様

1. 主な進化内容

◇衝突回避支援ブレーキ機能

＜歩行者対応 衝突回避支援ブレーキ機能追加＞

- ・世界最小サイズの小型ステレオカメラをフロントガラス上部に設置したことで、ステレオカメラが前方の車両や歩行者との距離を検知。従来の対車両のみならず、歩行者に対しても速度が約4～50km/hの場合に衝突回避支援ブレーキを作動

＜作動速度域向上＞

- ・作動速度が従来の約4～50km/hから約4～80km/hへ向上（対歩行者の場合は約4～50km/h）、衝突回避の相対速度も約4～20km/hから約4～30km/hへ向上したことで安心・安全性が向上

＜被害軽減ブレーキアシスト追加＞

- ・車両が衝突危険を認識した際、運転者のブレーキの踏み込みがあった場合には、強力なブレーキアシストを作動することで衝突回避、もしくは被害軽減を実現

2. 新たな機能の追加

◇ダイハツ初となるオートハイビーム

- ・対向車のヘッドランプなど前方の明るさを検知し、ヘッドランプのハイ/ロービームを自動切り替え。夜間でも対向車を気にせず運転に集中でき、安全性をさらに向上

以上